

2022年6月15日

2022年度「新入社員の意識」調査

調査結果のポイント

- 会社選びで最も重視するものは「仕事の内容」がトップ。54.7%と過去16年間で最高。
- 職場生活における不安は依然「仕事面」がトップ。
- 会社とはどんなところか。男性は「自己実現の場」、女性は「社会貢献の場」がトップ。
- 理想の上司は「気配り型」が64.8%と、人気が続く。
- 平均結婚希望年齢は **27.1** 歳。
- 希望する子ども数の平均は **1.67** 人。6人に1人は「ほしくない」で、その割合は過去最高。
- 子どもを持つことへの不安は「仕事を続けにくくなる」で男女差が大きい。
新入社員の世代にも、性別役割分業意識が存在。

調査要領

1. 調査目的 2022年度新入社員の意識の把握
2. 調査対象 当社主催「じゅうろく新入社員セミナー」を受講した、岐阜・愛知両県内企業・事業所の新入社員
3. 調査時期 2022年4月
4. 調査方法 無記名式アンケート
5. 有効回答者数 415名 (内訳は下表のとおり)

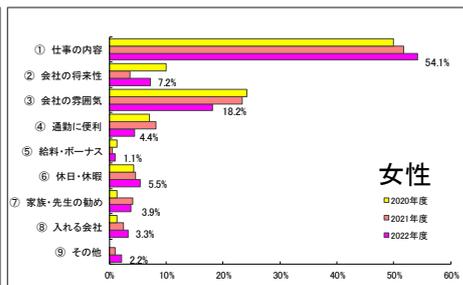
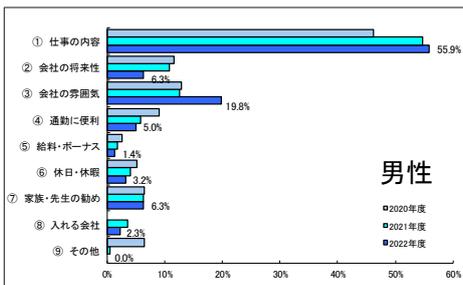
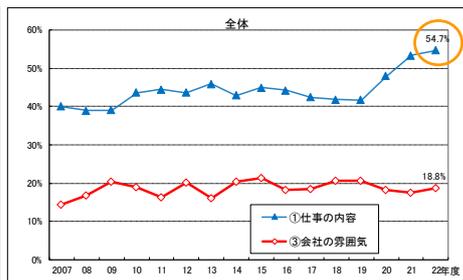
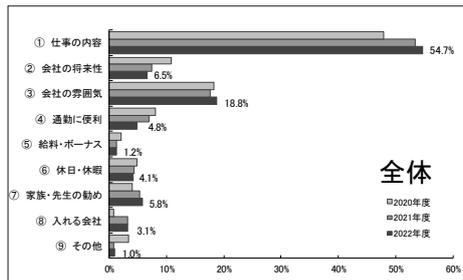
最終学歴	男 性		女 性		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学以上	140	63.1%	106	58.6%	253	61.0%
短大・高専	4	1.8%	10	5.5%	15	3.6%
専門学校	14	6.3%	18	9.9%	33	8.0%
中・高校	64	28.8%	47	26.0%	114	27.5%
合計	222	100.0%	181	100.0%	415	100.0%

(注) 本文中の図表の計数は、単位未満を四捨五入している関係で、内訳の合計等が合致しない場合がある。
また、無回答等により合計が合致しない場合がある。

1. 今の会社を選ぶ際に最も重視したもの

(選択肢)

- ① 仕事の内容に興味があり、自分の能力を活かせると思うから
- ② 会社に将来性がありそうだから
- ③ 経営者の人柄、職場の雰囲気などが良いから
- ④ 通勤に便利などところにあるから
- ⑤ 給料、ボーナスが良いから
- ⑥ 休日、休暇が多いから
- ⑦ 家族や親戚、学校の先生に勧められたから
- ⑧ 希望する会社ではないが、入れる会社だったから
- ⑨ その他



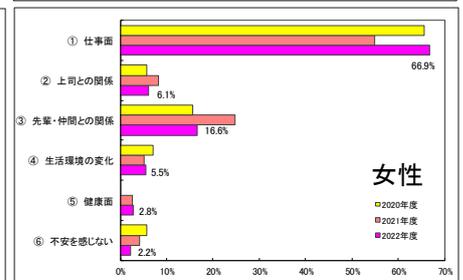
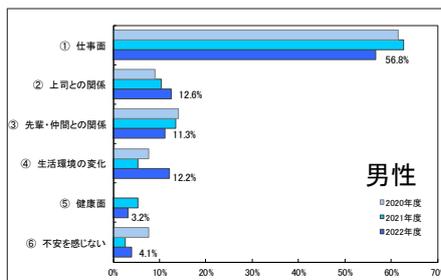
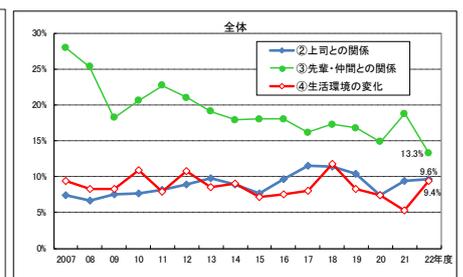
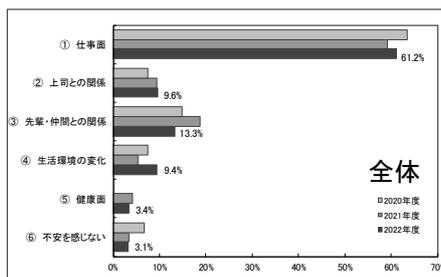
「仕事の内容」を重視する新入社員が増加

会社を選ぶ際に最も重視したことは、「①仕事の内容」が54.7%（前年比1.3ポイント増）でトップ、2位は「③会社の雰囲気」の18.8%（同1.3ポイント増）、3位は「②会社の将来性」の6.5%（同1.0ポイント減）であった。「①仕事の内容」は、ここ3年で増加傾向にあり、過去16年間で最も高い水準となった。一方で「②会社の将来性」「④通勤に便利」は過去16年間で最も低い水準となった。会社がどうであるかという事よりも、自分の従事する仕事に強く関心があり、自分軸で会社を選択していることがうかがえる。

2. 職場生活における不安

(選択肢)

- ① 仕事がうまくやれるか
- ② 上司とうまくやれるか
- ③ 先輩・仲間とうまくやれるか
- ④ 生活環境が変わること
- ⑤ 健康について
- ⑥ 不安を感じない



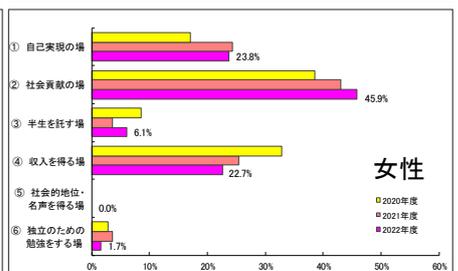
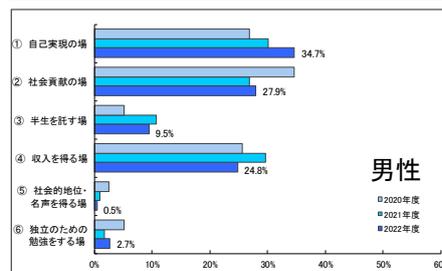
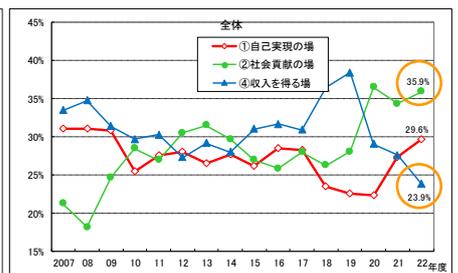
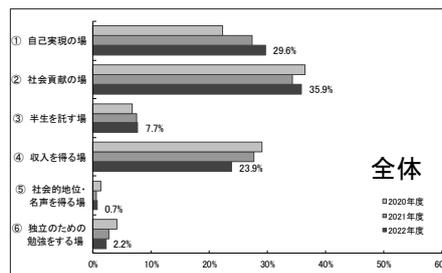
「仕事面」がトップ

職場生活における不安のトップは例年同様「①仕事面」61.2%（前年比2.1ポイント増）となった。「1.今の会社を選ぶ際に最も重視したもの」では「仕事の内容」が最多であったが、一方で不安も最も大きいことが分かった。次いで「③先輩・仲間との関係」13.3%（同5.5ポイント減）、「②上司との関係」9.6%（同0.2ポイント増）、「④生活環境の変化」9.4%（同4.1ポイント増）となった。男女で比較すると、例年、男性は仕事上の評価などに影響する「②上司との関係」を、女性は身近な存在である「③先輩・仲間との関係」を気にする傾向がある。

3. 会社とはどんなところか

（選択肢）

- ① 自己の個性や能力を活かし伸ばすところ
- ② 社会に役立つことを実践するところ
- ③ 自分の半生を託すところ
- ④ 収入を得るところ
- ⑤ 社会的地位や名声を得るところ
- ⑥ 将来何らかの形で独立したいので、その勉強をするところ



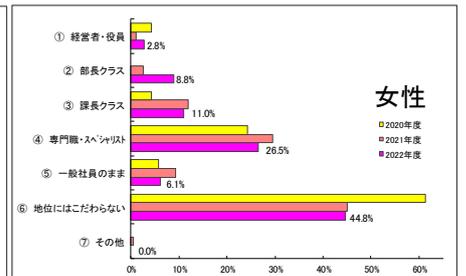
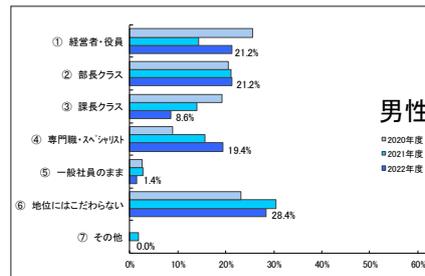
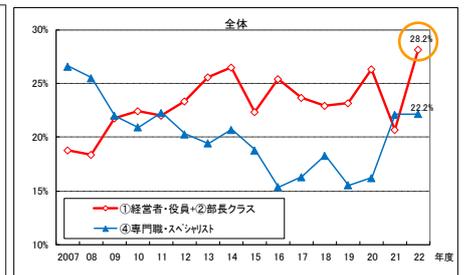
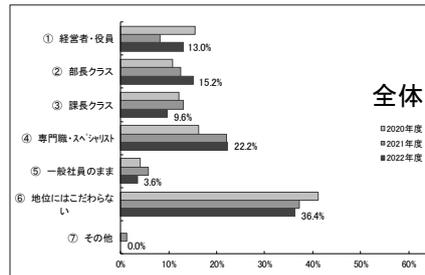
男性は「自己実現の場」、女性は「社会貢献の場」が最多

会社とはどのようなところかという問いでは、男女で特徴が異なる結果となった。男性のトップは「①自己実現の場」で34.7%（前年比4.7ポイント増）、女性のトップは「②社会貢献の場」で45.9%（同2.9ポイント増）となり、いずれも過去16年間で最多となった。これは会社を、男性は「自分が成長するためのステージ」と捉える割合が高いことを、女性は「自分が社会に役立つためのステージ」の場として捉える割合が高いことを意味し、いずれも増加傾向にあることから、男女間の意識の差が拡大していると考えられる。

4. 昇進や出世について、目指す地位

(選択肢)

- ① 経営者・役員
- ② 部長クラス
- ③ 課長(支店長、営業所長)クラス
- ④ 専門職・スペシャリスト
- ⑤ 一般社員のまま
- ⑥ 地位にはこだわらない
- ⑦ その他



経営者・役員、部長の割合が増加

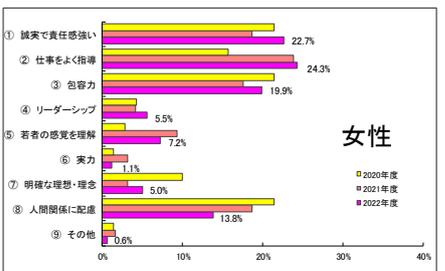
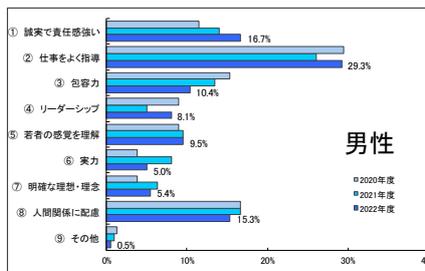
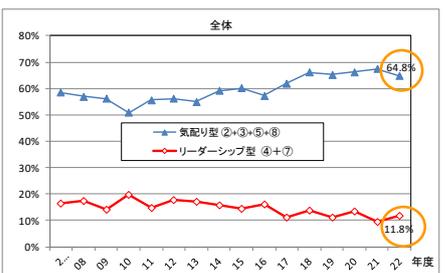
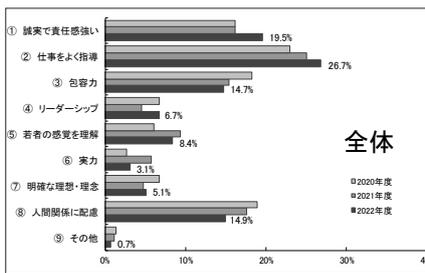
昇進や出世については、「⑥地位にはこだわらない」が36.4%（前年比0.9ポイント減）でトップ、次いで「④専門職・スペシャリスト」が22.2%（同0.1ポイント増）となった。「①経営者・役員」、「②部長」を合わせた経営層・上位管理職の割合は28.2%（同7.5ポイント増）と増加した。特に、女性については「②部長」クラスが8.8%（同6.2ポイント増）と、過去16年間で最も高い水準となったが、依然「⑥地位にはこだわらない」が44.8%（同0.3ポイント減）と回答割合が最も高い。

5. あなたにとって「理想の上司」とはどんな人ですか

(選択肢)

- ① 誠実で責任感の強い人
- ② 仕事をよく指導してくれる人 ▲
- ③ 包容力のある人 ▲
- ④ リーダーシップのある人 ◇
- ⑤ 若者の感覚を理解できる人 ▲
- ⑥ 実力のある人
- ⑦ 明確な理想・理念を持った人 ◇
- ⑧ 人間関係に配慮してくれる人 ▲
- ⑨ その他

▲・・・気配り型
◇・・・リーダーシップ型



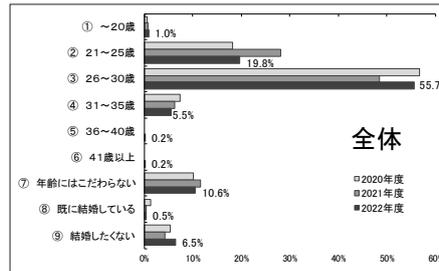
例年同様「気配り型」が人気

「理想の上司」のトップは、「②仕事をよく指導してくれる人」26.7%（前年比1.6%増）で、過去16年間で最も高い水準となり、次いで「①誠実で責任感が強い」19.5%（同3.4%増）、「⑧人間関係に配慮してくれる人」14.9%（同2.7%減）、「③包容力のある人」14.7%（同0.7%減）となった。気配り型※1の上司は64.8%と依然人気が高く、リーダーシップ型※2の上司（11.8%）を大きく上回る結果となった。

6. 結婚したい年齢

（選択肢）

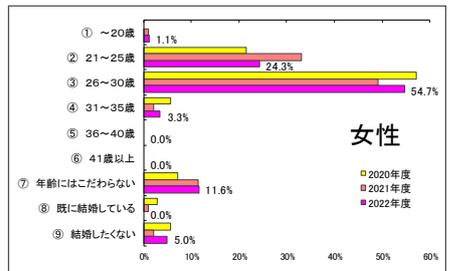
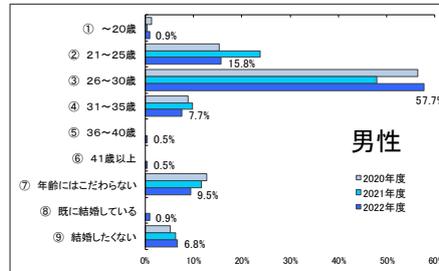
- ① ～20歳
- ② 21～25歳
- ③ 26～30歳
- ④ 31～35歳
- ⑤ 36～40歳
- ⑥ 41歳以上
- ⑦ 年齢にはこだわらない
- ⑧ 既に結婚している
- ⑨ 結婚したくない



平均結婚希望年齢の推移

調査年度	全体	男性	女性
2022	27.1	27.5	26.6
2021	26.6	27.1	26.1
2020	27.3	27.5	27.1
2019	26.6	27.1	26.1
2018	26.8	27.3	26.2
2017	26.9	27.4	26.3
2016	26.7	27.1	26.2
2015	26.6	27.1	25.8
2010	26.4	26.8	25.9
2009	26.4	27.1	25.6
2008	26.2	26.9	25.5
2007	26.1	26.8	25.4

（注）2011年～2014年は調査を行っていない。



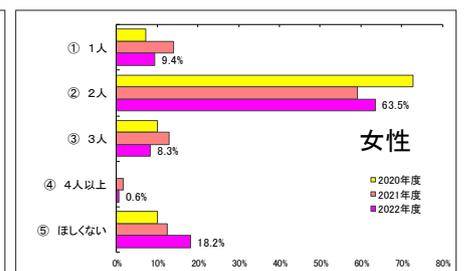
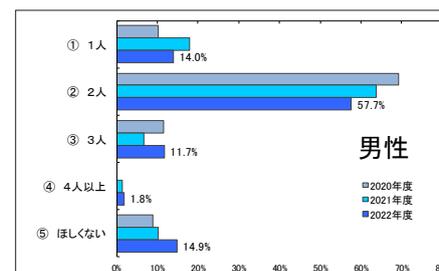
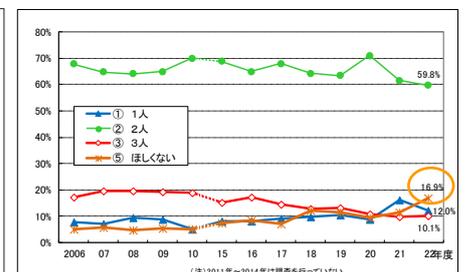
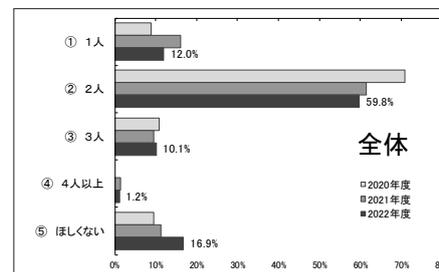
男女ともに「26～30歳」が最多

結婚希望年齢は、「③26～30歳」55.7%（前年比7.1%増）、「②21～25歳」19.8%（同8.3%減）、「⑦年齢にはこだわらない」10.6%（同0.9%減）の順となった。平均結婚希望年齢※3は、男性が27.5歳、女性が26.6歳、全体で27.1歳と、例年とほぼ同水準となった。

7. 子どもは何人ほしいか

（選択肢）

- ① 1人
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人以上
- ⑤ ほしくない



※1 気配り型…「②仕事をよく指導してくれる人」「③包容力のある人」「⑤若者の感覚を理解できる人」「⑧人間関係に配慮してくれる人」の合計

5

※2 リーダーシップ型…「④リーダーシップのある人」「⑦明確な理想・理念を持った人」の合計

※3 平均結婚希望年齢…「①～20歳」を18歳、「②21～25歳」を23歳、「③26～30歳」を28歳、「④31～35歳」を33歳、「⑤36～40歳」を38歳、「⑥41歳以上」を43歳として、①～⑥と回答した人の平均値を算出。

平均希望子ども数は、1.67人へ減少

希望する子どもの数は、「②2人」が59.8%（前年比1.7%増）でトップ、次いで「⑤ほしくない」が16.9%（同5.6%増）、「①1人」が12.0%（同4.1%増）となった。「⑤ほしくない」については、男性14.9%（同4.6%増）、女性18.2%（同5.8%増）と増加し、いずれも過去16年間で最も高くなった。

平均希望子ども数※4は全体で1.67人となり、過去16年間で最も少ない結果となった。日本の2021年の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産むと推計される子どもの数）は1.30と、1995年以降1.50を下回る水準が続いている。これと単純に比較はできないものの、何らかの理由（経済的な理由、仕事やキャリア形成とのタイミング、理想の結婚相手に巡り合えない、不妊等）で、入社タイミングで希望していた人数に実際の出生数が届かない可能性が高い。

平均希望子ども数の推移

単位:人

調査年度	全体	男性	女性
2022	1.67	1.72	1.64
2021	1.74	1.71	1.77
2020	1.83	1.83	1.83
2019	1.84	1.84	1.83
2018	1.80	1.79	1.82
2017	1.94	1.92	1.97
2016	1.94	1.97	1.91
2015	1.94	1.92	1.98
2010	2.06	2.04	2.07
2009	2.03	2.01	2.05
2008	2.06	2.07	2.04
2007	2.06	2.05	2.06

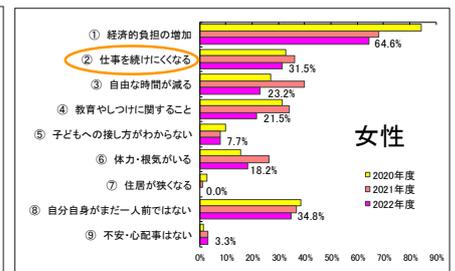
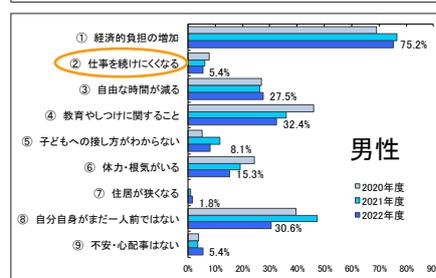
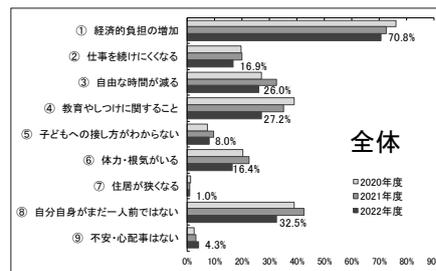
(注)2011年～2014年は調査を行っていない。

8. 子どもを持つことへの不安・心配事

(選択肢)

- ① 経済的負担の増加
- ② 仕事を続けにくくなる
- ③ 自由な時間が減る
- ④ 教育やしつけに関すること
- ⑤ 子どもへの接し方がわからない
- ⑥ 体力・根気がいる
- ⑦ 住居が狭くなる
- ⑧ 自分自身がまだ一人前ではない
- ⑨ 不安・心配事はない

※以上より最大3つまで選択



トップは「経済的負担の増加」

子どもを持つことへの不安・心配事について、最大3つまで選択してもらったところ、回答が多い順から「①経済的負担の増加」70.8%（前年比2.0%増）、「⑧自分自身がまだ一人前ではない」32.5%（同10.0%増）、「④教育やしつけに関すること」27.2%（同7.9%増）、「③自由な時間が減る」26.0%（同6.7%増）となった。男女別では、女性で「②仕事を続けにくくなる」が31.5%と3人に1人が不安に感じる一方、男性ではわずか5.4%となり、新入社員の世代にも、男性は仕事、女性は家事や育児という性別役割分業意識が存在する現状がうかがえた。

(研究員 高木 安希子)

※4 平均希望子ども数…「④4人以上」を4人として、①～④と回答した人の平均値を算出。